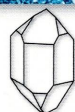


DATA FILE



六方晶系

名前	RED JASPER (レッドジャスパー) / 赤碧玉
化学組成	SiO ₂
色	赤色
光沢	ガラス光沢、脂肪光沢
蛍光	青白色、黄緑色
条痕	白色
劈開	なし
断口	貝殻状
硬度	7
比重	2.6

レッドジャスパー

RED JASPER

玉髓の一種である碧玉のなかで、赤色で産するものをレッドジャスパー（赤碧玉）という。

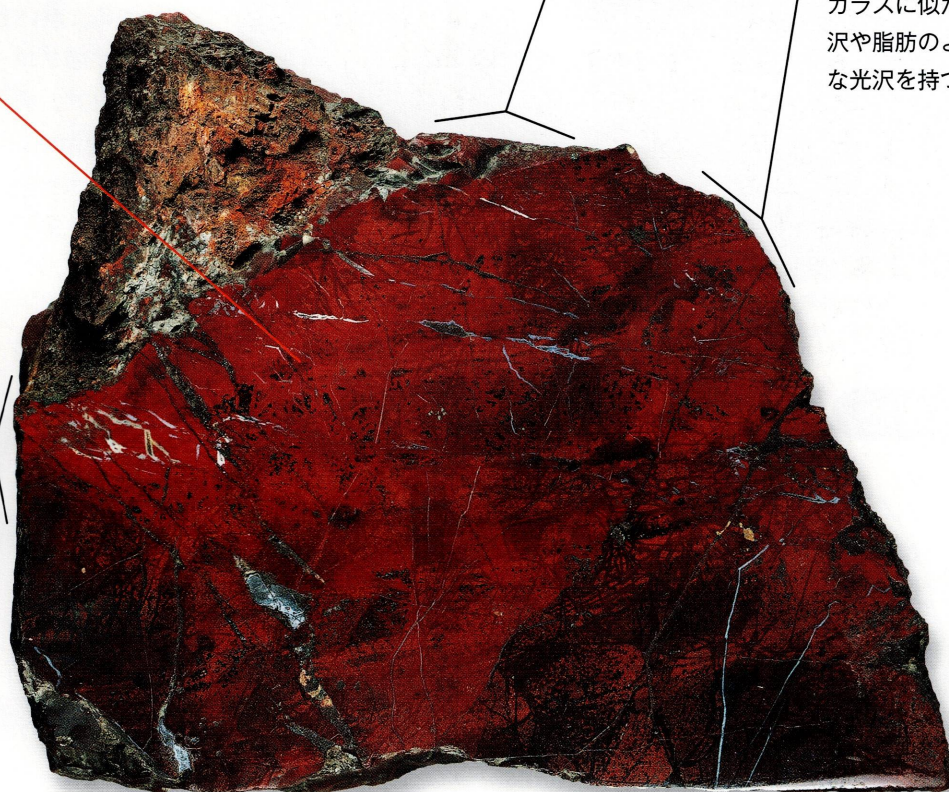
ガラスに似た光沢や脂肪のような光沢を持つ。

表面を研磨されたレッドジャスパー。

素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。

劈開はないが、ハンマーでたたくと貝殻状の断口を示す。

紫外線ライトを照射すると、青白色または黄緑色の蛍光を放つ。



赤色の碧玉

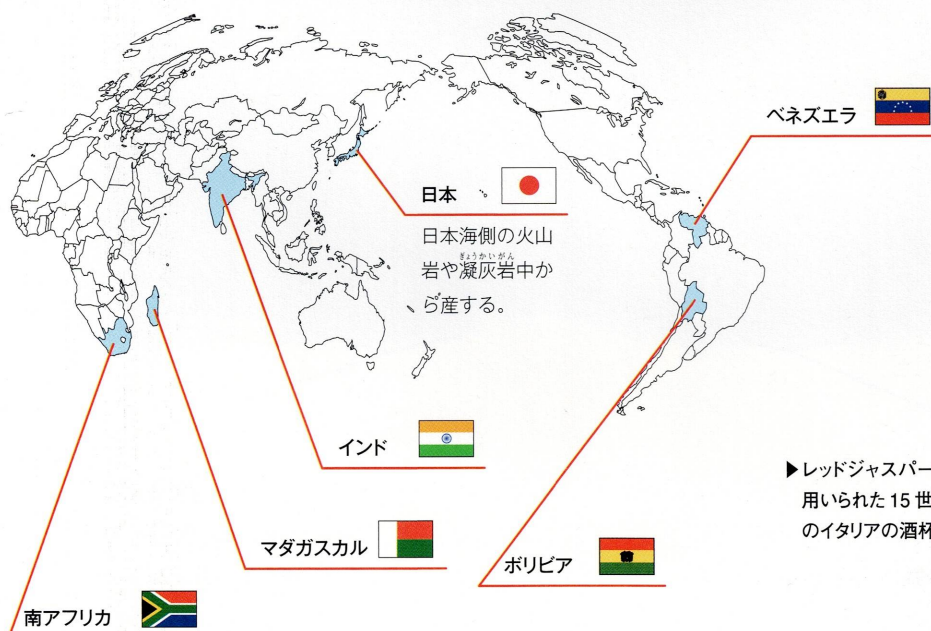
石英の微小結晶が集まって緻密な塊になった「玉髓（カルセドニー）」のなかでも、特に緻密な塊状を呈するものを「碧玉（ジャスパー）」という。碧玉は含まれる副成分によって灰色や暗緑色、黄色などのさまざまな色であられるが、そのうち赤色のものが「レッドジャスパー」と呼ばれる。この赤色は赤鉄鉱を副成分として含有しているためで、掘り出されたばかりのものはくすんだ色をしているのが特徴。火山岩や鉱脈中などに生成し、質の良いものはインドやベネズエラで産出する。

レッドジャスパー



▲南アフリカ大陸北部のギアナ高地には、川床がレッドジャスパーから成る川がある。ベネズエラ・カナイマ国立公園。

主な産地



▼黄色の碧玉でつくられた16世紀のイタリアのポット。



装飾品に加工

レッドジャスパーは研磨することによって光沢が増すため、磨いて装飾板にしたり、浮き彫りを施したカメオのブローチなどに加工される。そのほか、鉢やカップ、酒杯、花瓶などにも用いられている。なお、構造内に小さな孔がたくさん空いていて液体が染み込みやすいという性質を利用して、色が薄いレッドジャスパーを濃い色に染色して価値を高めることもある。



▶レッドジャスパーが用いられた15世紀のイタリアの酒杯。